

樺連情報

原稿

北海道恵須取会 副会長

理事

原田廣記

スキー大会

冬の移動手段・スポーツとしてのスキー（寒敷）について
スキー（寒敷）大会が、はじめて開催されたのが1911年（明治44年2月）樺太庁豊原です。

第1回樺太嶋技大運動会¹⁾として官幣大社 豊原神社の競馬場広場で開催されました。当時は、スキーを寒敷と称していました。（露式寒敷）大運動会の大会長は平岡定太郎（樺太庁長官）で樺太守備隊（軍人）や警察官・消防士・児童など多数が参加距離競技のみでした。この年に新潟県高田でオーストリアの軍人でテオドル・エドラ・フォン・レルヒ少佐が軍人や民間人にスキー技術の指導をする。明治45年、レルヒは中佐に昇進して北海道の旭川でスキー技術の指導をした。そこに樺太守備隊からも参加した。同年に第2回樺太嶋技大運動会、冬の樺太全島からスキー（寒敷）選手が集合して種目も長距離・リレー・児童旗取り等も盛り込まれています。

以後、冬の大運動会（スキー大会）は、スキー競技が中心となり全国へと拡大して行きました。

そこで、スキーの楽しさは広がりスキー競技大会は北海道でも第1回札幌スキー大会が開催したのは大正3年に小樽・銭函の熊坂（現・銭函小学校近く）で開催し札幌を中心とした北海道大学・鉄道管理局・営林署などの競技者と小樽の小樽商大・水産高校・郵便局スキー競技者での対抗戦が繰り広げられた。その結果は、小樽水産高校の選手が優勝をしました。

日本初のスキーリフト

それでは、スキー場に付きもののスキーリフトは何時ごろ建設されたのか？

日本で初めてのスキーリフト（スキートウ）²⁾が設置されたのは戦後、進駐軍が国内に2箇所を作るようにと指示し、長野県志賀高原の丸池のスキー場と北海道札幌市藻岩山のスキー場に決まり。昭和21年8月、進駐軍リフト建設担当のウォースレーヤ少佐が、北海道庁に「クリスマスまでに完成せよ」と命じた。

藻岩山は保安林で天然記念物の伐採は無理でしたが、少佐は最小限にすると同意した。（今では伐採が出来ないが）

北海道庁に対してスキー場に適した場所として藻岩山（531m）の北斜面を稲妻型に森林を伐採してコース作りをする。

コース横には第1スキートウ（リフト）の支柱を11本（木製）と原動車・折り返し滑車を取り付ける。複線式の空中索道で長さ983mに44個の二人乗り乗搬器³⁾で1時間当たり100人の輸送能力があった。第2スキートウ（リフト）も山頂まで取り付ける。

北海道庁の土木部には、後に北海道知事になられた堂垣内尚弘氏が中心になり着工して昭和22年には完成する。

このスキー場は、進駐軍専用でクラブハウスも将校用と下士官用の2箇所があった。しかし一般市民は利用が出来なく、ただ便利なものだと見ているだけでした。

スキー場の入り口には、MP（ミリタリーポリス）が銃を肩から提げて検問をしていました。

スキー場にはアルペンコース・ジャンプ台やトボーガンコース

も設置されていた。

支柱は、鉄骨がなく木製の支柱で滑車がつく部分は鉄骨で出来ている。支柱の高さが一番高いところで18m、低いところで7mです。乗り場から降り場までの高低差は16.4mです。

リフトの搬器（チェアー）は二人乗りですが今の様に横に並んで前向きに乗るのではなく、二人は進行方向と反対方向に背中合わせで乗る方式でした。そのためスキーを持つの乗り・降りの時は後ろ向きの方は注意をしなければいけなかった。

トボーガンコースは第1スキートウの横にある。

トボーガンとは大型の木製のソリに3人～4人が乗り雪で固めたコースを秒速30～40mで滑走するもので、ソリにはハンドル、ブレーキは付いていないものでした。

コースは全長1400mで減速区間や100mの停止区間が設けられている。

幅は3m～5mでコーナーでの傾斜をつけた。

スキーコースの中腹にはシャンツェ（ジャンプ台）も設置され北向きに飛躍距離20m級のシャンツェがありました。

スキー場には、山麓に将校用のロッヂ（66坪）と下士官用のロッヂ（77.5坪）がありまして館内には料理室・乾燥室・ポーチ等もあり管理人室は地下にあった。外壁は半丸太張りと軟石で室内は電気照明・防寒水洗トイレ・乾燥用電気炉も備えた英国風な感じになっていた。

昭和22年から「進駐軍専用スキー場」として始まりましたが昭和28年頃からは一般のスキーヤも利用することが出来るようになり進駐軍が撤退したあとは「札幌スキー場」と名前を変えて競技大会などに使用されました。

昭和33年の「スキー国体の会場」となったのを最後に使用が禁止され、裏側の東斜面に新設された現在の「藻岩山スキー場」にバトンタッチされた。

現在も当時の「第1スキートウ」の跡を見ることが出来ます。藻岩山の慈恵会登山口から約1.5kmの登山道近くに広場がありますがそこが「第1スキートウ」の降り場でコンクリート製の山上原動台座として現存しています。また、稲妻型のスキーコースも藻岩山の山頂からは、その部分がコースであったことが53年後の今でも植栽の跡から見る事が出来ます。

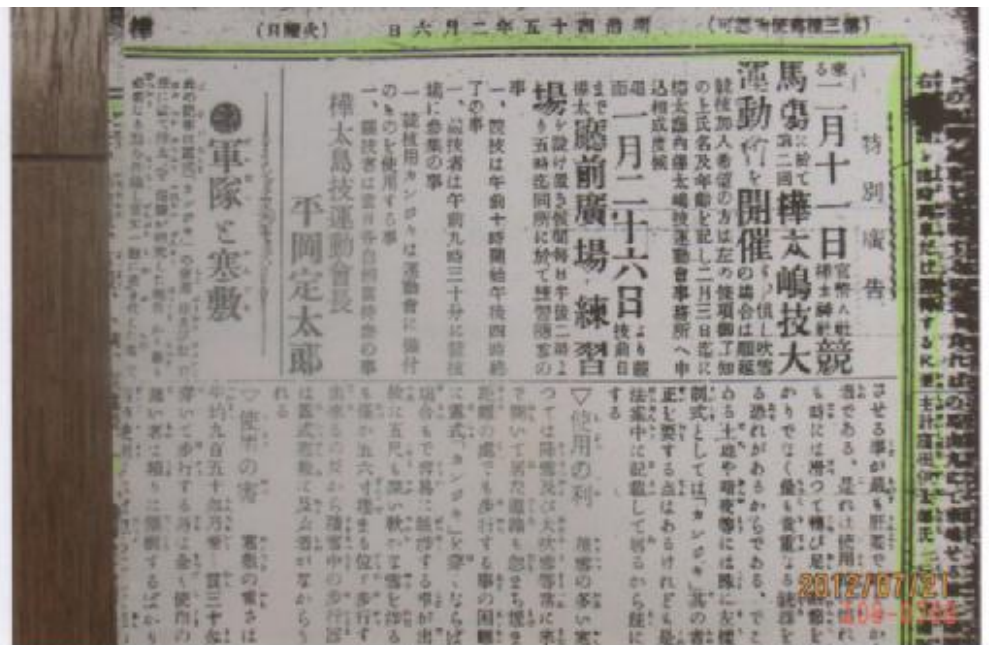
参考文献

- 1) 樺太日日新聞 明治44年2月・明治45年2月
- 2) 土木学会誌（新設札幌スキー場に就いて）昭和22年
- 3) 安全索道株式会社HPより転載
- 4) 毎日新聞（日本初のスキーリフト）平成24年4月

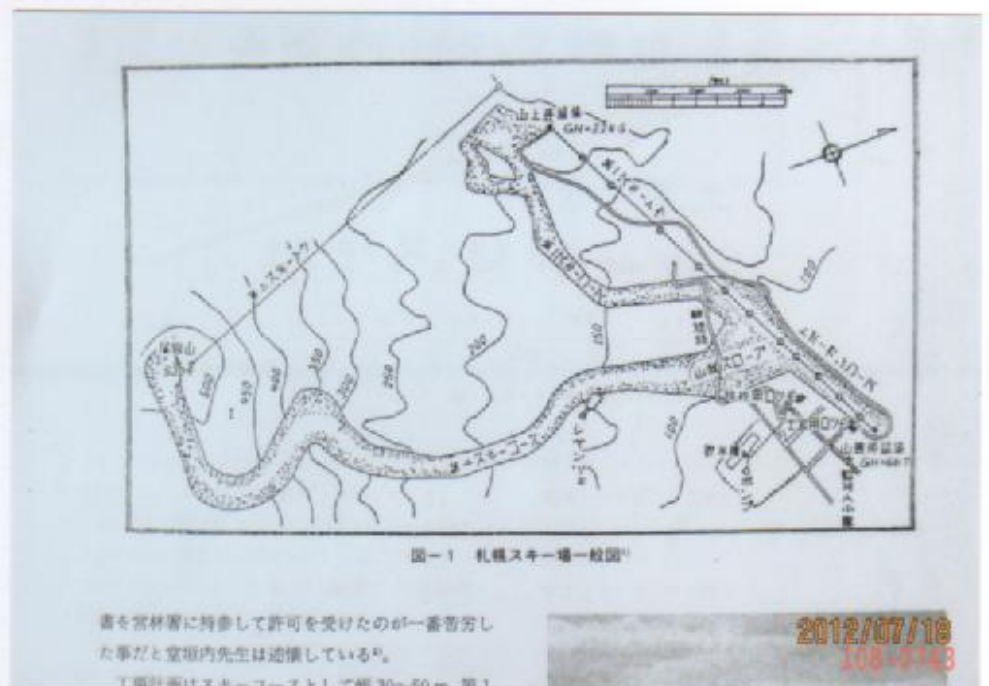
写真

- 写1) - 樺太日日新聞の記事
- 写2) - 藻岩 進駐軍のスキー場図面
- 写3) - 土木学会誌（昭和22年8月・第32号）
- 写4) - スキートウの搬器（安全索道HPより）
- 写5) - トボーガンのコース
- 写6) - 毎日新聞の記事
- 写7-1) - 現在もあるスキートウの原動台座
- 写7-2) - スキートウ山上の引留台
- 写7-3) - 藻岩 原始林（大正10年3月3日指定）

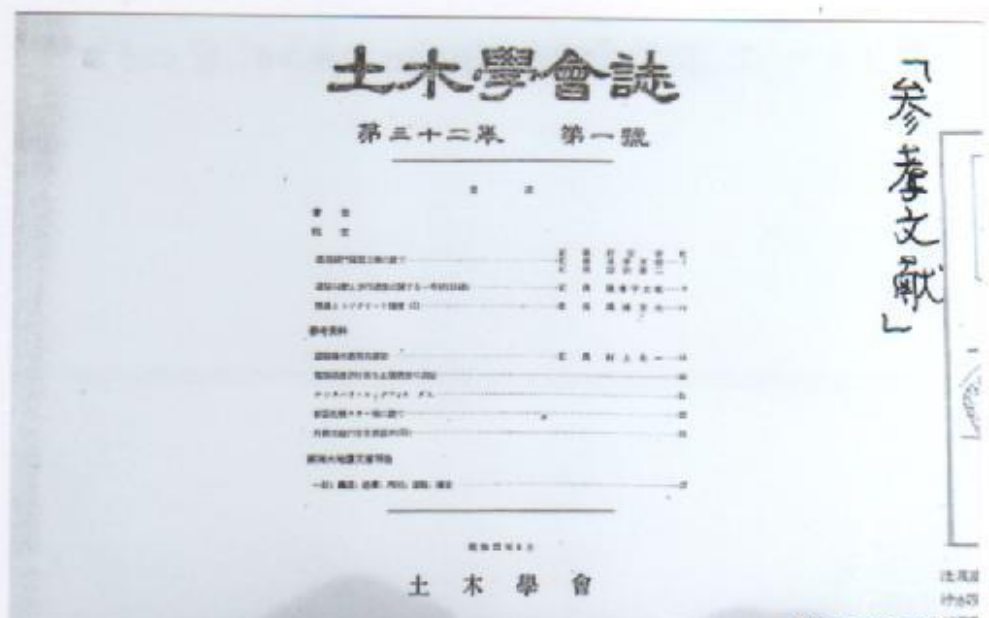
[写真1]
樺太日日新聞



[写真2]
進駐軍スキー場



[写真3]
土木学会誌



〔写真4〕 スキートウ搬器



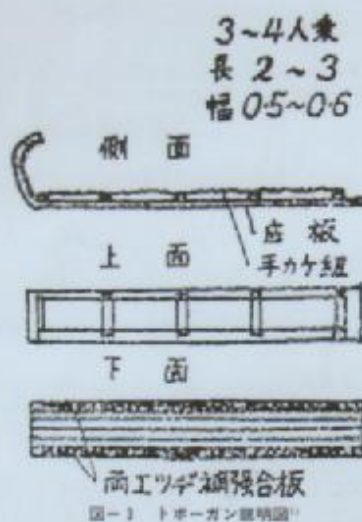
写真一 完成した札幌スキー場乗搬器¹⁾

2012/07/18
108-0745

〔写真6〕 毎日新聞記事

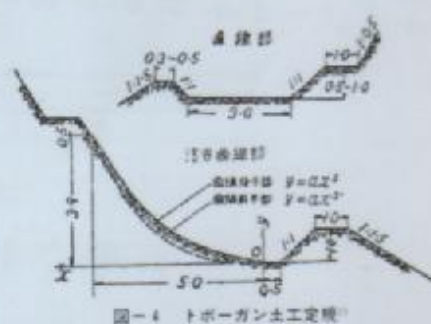


〔写真5〕 トボーガンのコース



図一 トボーガン説明図¹⁾

ウォースレーヤ少佐が堂垣内先生の弱をたいて
「よくやったりスター・ドウガキナイ、スキートウの
材料トボーガンコースの試事をしよう」と声をか



図一 トボーガン土工定規¹⁾

7. 山上起動停留場跡

第1スキートウの終点となる山上起動停留場跡は、中央区の登山道からおよそ800mほどの位置にあり、コンクリートの支柱基礎とアンカーレッジが残っている(写真一4、5)。停留場跡を実測した結果を示す(図一5)。

8. おわりに

堂垣内先生が晩年、北海道知事時代に「北海道

2012/07/18
108-0744

[写真7①]
スキートウ台座



[写真7②]
スキートウ引留台



[写真7③]
藻岩山原始林

